



令和5年(2023)8月12日

28

今年2月末に父を亡くし、新盆を迎えます。初めてのことなので、あらためてお盆について調べてみました。

今まで「お盆休み」をしながら、これとお盆を意識せずただ夏休みとして過ごしておりましたが、今年2月末に父が亡くなり今回初盆(新盆)となります。そこで、思い立ってお盆について調べたりお盆飾りを、葬儀社、仏具店、ホームセンターで買い揃えたりしました。

お盆飾りの飾り方は、仏具屋さん、ホームセンターあるいは通販のwebサイトで見ることができますのでここでは省略し、自分及び家族向けにまとめた資料を以下にお見せしようと思います。



### ➡ 初盆当日にやるべきこと 迎え火

お盆では先祖や故人方の霊が現世へと戻ってきます。初盆(新盆)の初日にあたる8月13日は、故人を迎え入れる日です。できれば前日までに、初盆(新盆)の飾り付けをしておきます。夕方には玄関先で「迎え火」を焚き、故人が初めて帰ってくるための目印とします。住宅事情などにより火を焚くのが難しい場合には、白提灯を飾るだけでも構いません。

迎え火はお盆の初日に焚く火のことです。ご先祖様の魂は迎え火の煙に乗って自宅に戻ってくると言われています。迎え火は13日の夕方以降の日が暮れた時間に、自宅の玄関や門口、またはお墓で芋殻<sup>おがら</sup>※1などを燃やして焚きます。続いて、ご先祖様の魂が迷わず自宅に戻ってこられるように、玄関に白い盆提灯を灯します。もし住宅事情により迎え火を焚くのが難しい場合は、玄関に盆提灯を灯すだけでも構いません。

※1：皮をはいだ麻の茎。盂蘭盆<sup>うらぼん</sup>の門火<sup>かどび</sup>をたくときなどに用いる。あさがら。

ご先祖様は夜に現世に戻ってくると考えられています。盆の初日は早く帰ってきてほしいため、日が暮れたらすぐに迎え火を焚くというのが一般的です。

### ➡ 新盆（初盆）のお供えや飾りなど

お供えや飾りは、基本的に通常のお盆と同じです。新盆と通常のお盆で異なるのは、主に白提灯を設置することと、野菜や果物などのお供え物が多少豪華になるという点です。

なぜお盆では独自の飾りつけを行うかについては、つぎのように言われています。

仏教において、釈迦の弟子が母親の苦しみを取り除いてほしいと釈迦に母親の救いを請った際に受けた教えを元にした供養がお盆の始まりと言われています。日本ではお盆の飾りつけは、初めは宮廷を中心にお盆行事の一環として行われていました。それが、江戸時代になると仏壇が庶民の間に普及し、お盆に精霊棚しょうりょうなどが飾られるようになります。大正時代になると、ろうそくが安価になったことを背景に盆提灯の普及もすすみました。



### ➡ 盆提灯

盆提灯には、白張提灯（または白紋天）と呼ばれる白地の提灯と絵柄の入った提灯がありますが、白張提灯は新盆のみで使用されます。白提灯を用意する理由は普通に使用される盆提灯と別のもを使用することで、故人が初めて現世に住まう人々の元へ帰る際に迷わないためです。白張提灯は新盆の一度きりで使い、その年のお盆の送り火でお焚き上げるなどして処分します。翌年以降は通常のお盆提灯のみを飾ります。

盆提灯は、精霊棚と呼ばれる祭壇の両脇に、基本的に一対（左右対称で二つ）設置します。白張提灯は対である必要はなく、精霊棚の脇や玄関、軒先などに吊り下げて飾ります。

### ➡ 精霊棚

精霊棚は、ご先祖様を迎えるために設置する祭壇です。精霊棚には仏壇から移した位牌を祀り、精霊馬やお供え物などが置かれます。

### ➡ お供え物

主に、新鮮な野菜や果物をお供えします。故人が好きだった食べ物をお供えしてもよいでしょう。お供え物は真菰まこもなどの敷物の上に置いた蓮の葉を器にして盛り付けます。蓮の葉が手に入らなければ、家庭にあるシンプルなお皿などを使用します。

主な供え物は以下のようなものがあげられます。

- ・ 水の子

器に蓮や里芋の葉を敷き、研いだお米の上になすときゅうりをさい囊の目切りしたものを盛り、水に浸したものが水の子です。水の子には、餓鬼のような、強欲であったために死後に苦しんで

いる霊も、お盆にはもてなそうという意味があります。きゅうりとナスを賽さいの目に切り、水を入れているのは、食べ物を食べられない餓鬼でも食べやすいようにするためだとされています。

#### ・ そうめん

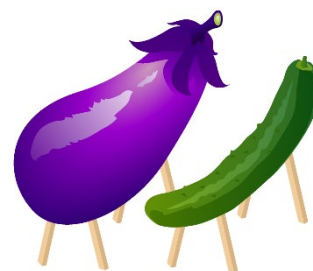
百味五果<sup>※2</sup>の麺にあたると同時に、そうめんは故人の方がこの世とあの世を行き来する際に使う馬や牛の手綱に似ているから、季節に見合ったものだからという理由で供えられます。荷物をくくるための紐という説もあります。

※2：百味はたくさんの種類のおいしい物、五果は瓜、なす、麺、饅頭、餅の五種類を指す。

#### ・ 果物・野菜

亡くなられた方があの世からこちらへ帰ってくる際に、長旅に疲れて空腹であるはずですが、そのためにも、季節の旬の果物や野菜を用意して、亡くなられた方の空腹を満たしてあげましょう。

夏野菜であるきゅうりとナスびは、お盆のお供えの代表格です。それぞれに芋殻おがらを挿して、きゅうりを馬に、ナスびを牛に見立てます。ご先祖様が馬に乗って早くやって来て、牛に乗ってゆっくり帰って行ってほしいという願いが込められた風習です。これらを「精霊馬しょうりょうま」とも呼びます。



#### ・ ほおずき

盆提灯に似ていることから、故人の方への目印として飾られます。お盆に帰ってくるご先祖様に目印になるようにほおずきを吊るす、という理由があります。また、ほおずきが仮家(お盆の間の故人の仮の住まい)としても使われています。ほおずきの中は空洞なため、魂がそこにお盆の間宿ることができると考えられているためです。ほおずきの飾り方は地域によって様々です。

盆棚の笹竹にかけた縄に吊るす方法、花瓶などの花器に挿す方法、お盆やお皿の上に置いて活ける方法、玄関などに縄を吊るしてかざる方法など家によって色々な方法が使われています。飾る数の決まりはありません。

お盆のほおずきの処分方法は、土に埋めたり、白い紙に包んで塩で清めてから処分するという方法があります。また、お焚き上げしてもらうこともできます。

#### ・ 供花

祭壇両脇に一对の籠花または花瓶を供えます。スペースを確保できないときは花瓶一つに生花を活けて祭壇脇に飾ることもあります。

#### ・ 闕伽水・禊菽の花

闕伽水は、器のなかに、清浄な水を注いだものを指します。「闕伽」は、仏教において、供養のための水だとされています。また、皿に禊菽みそはぎの花を数本乗せて飾ります。禊菽の花は、その名前の「禊みそぎ」という漢字が悪霊を追い払うという意味を持つため、用いられるようになりました。

- ・ 真菰まこものゴザ

真菰とは、イネ科の植物です。釈迦が、人の病気を直すために、真菰を用いて編んだ寢床を用意したことから、真菰は聖なる植物だと言われています。この真菰のゴザを、経机や小机の上に敷き、その上から他の飾りを乗せていきます。

- ・ 笹竹

笹竹とは、小さい竹のことです。笹竹は、神域を張りめぐらすという意味を持っています。この笹竹に縄を結び、結界のように縄を張りましょう。

- ・ ロウソクと線香

家庭にストックしてあったものではなく、いただき物でも構いませんので、新盆のために用意された新しいロウソクや線香を使用します。

- ・ 芋おがら殻、松の割り木

芋おがら殻や松の割り木は、迎え火・送り火として玄関やお墓で燃やすための木材です。

精霊棚の飾りやお供えには、「香」「花」「灯明」「浄水」「飲食」の五つを供養の基本とするこく五供の考えに基づいたものを用意します。地域によっては、「ろうそくの色を白にする」や「お団子を供える」という決まりがあったりします。

お供え物は日持ちするものを選ぶように、果物は季節のもので丸い形状のものを用意しましょう。また通常のお盆であれば青や紫の花を供えることもありますが、新盆で供える花は白を基調とします。初盆には食べ物やお花をお供えします。お菓子や季節の果物がお供え物の定番ですが、終わった後にみんなで分けられるゼリーや水羊かん、ジュース類も人気があります。それ以外にも、故人が好きだった物を供えてあげるのが良いでしょう。

13日～15日の間はお供えや水を毎日交換します。交換の際、下げたお供えは捨てるのではなく家族でいただきます。

## ➡ 送り火 (16日)

迎え火と同じように芋おがら殻や松の割り木などの木材を使用して、自宅の門前や玄関先で送り火を焚きます。送り火を焚く際、白提灯を一緒に燃やします。送り火の焚き方は迎え火と同様です。ただし、迎え火は日が暮れてすぐ焚くのに対し、送り火はゆっくり帰ってほしいという願いを込めて、日が暮れてから焚くのがよいと言われています。





〔 齋藤茂樹の北関東巡り バックナンバー 〕

<input type="checkbox"/>	#1 鎌倉殿の13人	<input type="checkbox"/>	#16 シアトルの花見
<input type="checkbox"/>	#2 紅葉の群馬県	<input type="checkbox"/>	#17 宇都宮市民合唱祭
<input type="checkbox"/>	#3 栃木、埼玉の名所	<input type="checkbox"/>	#18 桜の名所 愛知・兵庫
<input type="checkbox"/>	#4 栃木、群馬県庁	<input type="checkbox"/>	#19 群馬の桜と上毛かるた
<input type="checkbox"/>	#5 全国御守り特集	<input type="checkbox"/>	#20 交通の要所・館林
<input type="checkbox"/>	#6 世良田東照宮・家康	<input type="checkbox"/>	#21 第50回宇都宮市民合唱祭
<input type="checkbox"/>	#7 栃木・益子の陶器	<input type="checkbox"/>	#22 骨波田の藤と塙 保己一
<input type="checkbox"/>	#8 奥の細道むすびの地	<input type="checkbox"/>	#23 大室古墳群、鼻高展望花の丘
<input type="checkbox"/>	#9 古鎌倉街道	<input type="checkbox"/>	#24 桜とあじさい、紅葉の太平山
<input type="checkbox"/>	#10 新田義貞・上毛かるた	<input type="checkbox"/>	#25 ドン合唱団 歌い続けて65年
<input type="checkbox"/>	#11 慈覚大師 円仁	<input type="checkbox"/>	#26 宇都宮市民芸術祭合唱フェス
<input type="checkbox"/>	#12 バレンタインチョコ	<input type="checkbox"/>	#27 第63回群馬県合唱コンクールを聴く
<input type="checkbox"/>	#13 梅の名所 愛知・京都		
<input type="checkbox"/>	#14 梅の名所 栃木・群馬		
<input type="checkbox"/>	#15 早咲きの河津桜		

[Back](#)

「齋藤茂樹の北関東巡り」TOPへ戻る

[Home](#)

「ホームページ」表紙へ戻る